

高梁市立 高梁認定こども園

基本構想（概要版）

令和3年2月

高 梁 市

高梁認定こども園の整備について

1) 背景

全国的な少子化の中で、高梁市においても、就学前の子どもの数が減少していますが、就労を希望する保護者は増加しており、幼稚園では人数も少なく、近年においては休園する園もでてきており、適正な集団の中での教育保育が成り立ちにくくなっています。

一方で市街地の保育園では定員を超えるというアンバランスな状況が生じており、乳児保育ニーズの増加や施設の老朽化への対応が課題となっています。

これらの課題がある中で、本市においては、平成25年に本市の幼保一体化の基本的な考えに基づき高梁市就学前教育・保育方針を定め、就学前のどの施設においてもすべての子どもに等しく質の高い就学前教育を実施するための高梁市教育保育課程を策定し、すべての園で運用をしていくとともに、良質な教育・保育環境を整えるため、教育保育施設の整備を進めてきました。

具体的には、平成27年4月に、有漢地域、川上地域の保育園・幼稚園を認定こども園として、平成31年4月に、成羽地域の2つの保育園を成羽認定こども園として開園してきたところです。

高梁地域の市街地については、高梁幼稚園、高梁南幼稚園、高梁保育園の3園を設置していますが、高梁幼稚園は昭和55年、高梁南幼稚園は昭和51年（平成25年に耐震化の改修）、高梁保育園は昭和49年に建築されており、すべての園が建築から40年以上経過し、建物の老朽化も著しく、高梁南幼稚園以外は耐震化の対応もできていないなど、施設の改修が大きな課題となっています。

国においては、就学前の教育・保育ニーズに対応するため平成18年から認定こども園制度の普及促進が図られており、高梁地域の市街地についても、幼保一体化推進スケジュールにおいて平成28年度以降としていた幼保連携型の認定こども園の整備を計画するものです。

2) 基本的な考え方

(1) 高梁市街地の幼保一体化

高梁市街地に設置している高梁幼稚園・高梁南幼稚園・高梁保育園を再編し、高梁認定こども園を整備します。

| 園名 | 敷地面積 | 園児数(名) |
|--------|----------------------|--------|
| 高梁幼稚園 | 2,583 m ² | 22 |
| 高梁南幼稚園 | 1,574 m ² | 23 |
| 高梁保育園 | 1,979 m ² | 141 |
| 計 | | 186 |

(2) 高梁認定こども園の特徴

・市内最大規模のこども園

高梁市街地に設置している3園を再編すること、また働く保護者の乳児保育ニーズが高まっていることから、乳児の定員を増加することで市内最大規模の定員数となります。

・子どものためのこども園

こども園は、子どもの健やかな成長が図られる環境を与え、心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育ての支援を行うことを目的として設置されるものです。保護者の子育て支援については、子どもの利益を優先して行うとされており、こども園の主役はあくまで「子ども」ということを念頭におき、こども園の整備を行います。

・子どもの避難所となるこども園

本市は平成30年7月豪雨により甚大な被害を受けました。その経験を活かし、こども園は、災害に強く、なおかつ乳幼児が安心して避難できる施設とします。

(3) 付属施設

こども園は、保護者及び地域の子育て家庭に対する支援を行う目的を持つ施設であることから、子育て支援センターや子育て世帯が相談できる場所、そして子育てを通して地域の人々が気軽に集えるつながりを大切にした場所を併設します。

(4) 建設場所

高梁市原田北町（岡山県立高梁城南高等学校運動場東側）

(5) 開園予定

令和7年4月

3) 高梁認定こども園のコンセプト(概念)

『夢が広がるこども園』 ～子どもとともにつながるこども園～

幼児は、遊びや生活といった経験を通して、人間として、社会の一員としてよりよく生きるための基礎をこの時期にたくさん学んでいる。このことを踏まえ

子どもにとって楽しい・やりたい・ワクワクする・知りたい…子どもの夢が広がるこども園

キーワード： 『ひと』 × 『しぜん』 × 『こころ』

ひと

保護者・地域住民・老人クラブなど人との関わり
多くの人とのつながりの中で子どもが育つ

しぜん

季節・風・木や花・生き物等から五感で体験する
自然をとおして、命の大切さを学ぶ

こころ

こころがワクワクする こころが動く
こころが元気になる こころがつながる

子どもにとって、よりよい環境 ⇒ 社会にとってもよりよい環境

さまざまな人が、子どもとともにつながることで、子どもにとってもより良い環境をつくることができ、社会にとってもより良い環境をつくることできる。子どもたちと地域がいっしょに未来を創っていく場所。

4) 施設の概要

1. こども園

| a. 【園舎】 | | |
|----------------|--|--|
| 延床面積 | 2,500㎡程度 | |
| | 〈園舎基準〉 320㎡+100㎡×(学級数-2)+乳児室又はほふく室 3.3㎡×2歳未満園児数+保育室又は遊戯室 1.98㎡×2歳以上園児数 ※「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律に基づく幼保連携型認定こども園の設備及び運営の基準を定める条例」（以下「岡山県幼保連携型認定こども園条例」）による。 | |
| 園舎階数 | 原則2階建て以下 | |
| 主体構造 | 木造および鉄骨造を主構造とした複合構造 ※詳細は基本設計において検討 | |
| 想定定員 | 215人 | |
| 想定諸室等 | 乳児室又はほふく室 | 各年齢 各1室（0・1歳児） |
| | 保育室(学級) | 2歳児：2室、3歳児：3室、4歳児：2室、5歳児：2室（計9室） |
| | その他の諸室等 | 遊戯室、ランチスペース、便所、図書スペース、倉庫、教材庫、玄関ホール、職員室、保健室、調理室、会議室、職員用更衣室、休憩室、書庫、応接・相談スペース、ことばの教室、デッキスペース、洗濯・沐浴・手足洗い場、給湯・調乳スペース、廃棄物集積スペース 飲料水設備、加熱・保存設備、園児用清浄設備、エレベーター、防災備蓄倉庫、非常用発電設備 他 ※諸室機能を最大限に活かしながら、効率的な融合や併用など柔軟な組み立てを検討する |
| 職員数 | 45人程度 | |
| | 〈職員基準〉（園児：職員数）、4・5歳児（30人：1人）、3歳児（20人：1人）、1・2歳児（6人：1人）、0歳児（3人：1人）※「岡山県幼保連携型認定こども園条例」 | |
| b. 【園庭（屋外遊技場）】 | | |
| 園庭面積 | 1,500㎡程度 | |
| | 〈園庭基準〉「400㎡+80㎡×(学級数-3)」+3.3㎡×2歳以上3歳未満園児数 ※「岡山県幼保連携型認定こども園条例」 | |
| c. 【駐車場】 | | |
| 駐車場面積 | 1,000㎡程度 | |
| d. 【その他施設・設備等】 | | |
| その他施設・設備等 | 屋外倉庫、遊具、屋外トイレ、屋外手足洗い場、小動物の飼育小屋、駐輪場、太陽光発電（蓄電池含む）設備 | |

2. 付属施設

こども園と相互に連携して子どもや子育て世代のための環境を形成する「子育て支援センター」を、

| | |
|------|--|
| 延床面積 | 500㎡程度 |
| 概要 | 交流室、相談室、多目的室（台所を含む）、事務室、トイレ、授乳コーナー、倉庫・収納、園庭 ※詳細は基本設計において検討 |

こども園と併設して計画します。